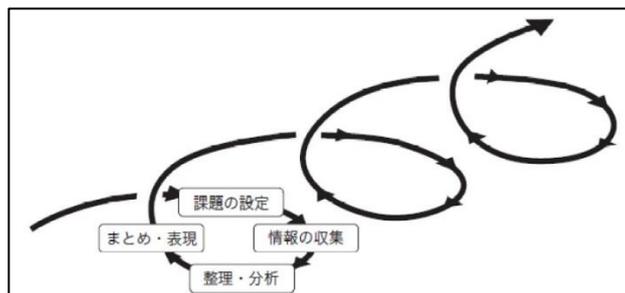


(生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ 議論のまとめ資料より) H28 6/17 時点

1 これまでの成果と課題

(1) 成果

- 「課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現」の探究のプロセスを意識した総合的な学習の時間が行われてきている。また、探究のプロセスに積極的に取り組む子供ほど各教科における期待する思考力などの学力が高い傾向にあることも明らかになった。



＜図1 探究的な学習における子どもの学習の姿＞

(2) 課題とさらなる期待

- 総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するということや、総合的な学習の時間と各教科との関連を明らかにするという点においては、学校により差がある。
- 探究のプロセスを意識することは広まっているが、探究のプロセスの中でも、「整理・分析」「まとめ・表現」に対する取組が十分ではない。

2 総合的な学習の時間において育成する資質・能力について

(1) 総合的な学習の時間で育成する資質・能力

i) 知識や技能（何を理解しているか、何ができるか）

- 課題の解決に向けて行われる横断的・総合的な学習や探究的な学習においては、それぞれの課題について事実に基づく知識や技能が獲得される。事実に基づく知識は、探究のプロセスが繰り返され、何度も活用され発揮されていくことで、構造化され、体系化された概念的な知識へと高まっていく。

ii) 思考力・判断力・表現力（理解していること・できることをどう使うか）

- 課題の解決に向けて行われる横断的・総合的な学習や探究的な学習においては、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現のプロセスが繰り返され、連続する。例えば、比較する、分類する、関連付けるなどといった思考の枠組みは、教科・領域横断的な汎用的なものであると考えられる。

iii) 学びに向かう力・人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

- 「学びに向かう力・人間性」は、「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」として育成すべきとしていたものと対応している。「自分自身に関すること」としては、主体性や自己理解、内面化して自信をつかむことなどの心情や態度が、「他者や社会とのかかわりに関すること」としては、協同性、他者理解、社会参画・社会貢献などの心情や態度が考えられる。

(2) 資質・能力を育む学習過程のあり方

① 課題の設定

問題状況の中から課題を発見設定し、解決の方法や手順を考え、見通しを持って計画を立てること。また、実社会や実生活との関わりから見出される課題の多くは、答えが多様で正答の定まらない問いといった性質がある。

小・中学校 総合的な学習の時間

② 情報の収集

効果的な手段を選択し、情報を収集すること。各教科で育まれた情報活用能力を総合的に活用することが求められる。

③ 整理・分析

問題状況における事実や関係を把握し理解したり、多様な情報の中にある特徴を見付けたり、課題解決を目指して事象を比較し関連付けたりして考えることが求められる。

④ まとめ・表現

相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、表現したり、学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとしたりすることが求められる。

(3) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善充実

アクティブ・ラーニングの視点による総合的な時間の授業改善は、これまでと同様に探究のプロセス（①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現）を充実させるとともにその過程において多様な他者との交流など協働的（協同的）な学びを位置付けることが重要である。

(i) 「深い学び」の視点

「深い学び」とは、子どもたちが習得・活用・探究を見通した学習過程の中で「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現し、見方・考え方を成長させながら資質・能力を獲得していけるような学びである。

- ・ 「深い学び」については、探究のプロセスを一層重視し、これまで以上に学習過程の質的向上を目指すことが求められる。

(ii) 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」とは、他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ、深めるような学びである。

- ・ 多様な方法を通して多様な他者と対話することの三つの良さ。

① 他者への説明による知識や技能の構造化

⇒ 身に付けた知識や技能を使って相手に説明することで、つながりのある構造化された知識へと変容していく。

② 他者からの多様な情報収集

⇒ 多様な情報が他者から供給されることで、構造化は質的に高まるものと考えられる。

③ 他者とともに新たな知を創造する場の構築

⇒ 実社会・実生活の場においては、異なる多様な他者との対話を通して、新しいアイデアを創出したりそれを実現させたりすることが求められており、総合的な学習の時間において、他の児童生徒と協力して探究的な学習を行うことは不可欠である。

(iii) 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。

総合的な学習の時間においては、学習したことをまとめて表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく過程を重視してきた。こうした探究のプロセスの中で主体的に学んでいく上では、課題設定と振り返りが重要である。